2025年度　事業報告　　施設名　　幼保連携型認定こども園　はたつかこども園

事業年度	定員(人)			児童数(延人数)			充足率(%)		延長保育利用人数（延人数）				一時保育	園庭開放他
									30分延長	1/1.5時間延長	2時間延長	日割り	（延人数）	（延人数）
2024年度　事業報告	135 人	1号	15 人	1,693 人	1号	170 人	1号	94 %	103 人				52 人	320 人
		2,3号	120 人		2,3号	1,523 人	2,3号	106 %						
2025年度　事業報告	135 人	1号	15 人	1,737 人	1号	192 人	1号	106 %	115 人				90 人	339 人
		2,3号	120 人		2,3号	1,545 人	2,3号	107 %						
ヒヤリハット　A(危険度重)B(危険度中)C(危険度軽)				事故報告　(受診を要した件数)					要望・意見・苦情　報告					
A：　6件　　B：　25件　　C：　41件				15件					要望：　1件　　意見：　3件　　苦情：　3件					

方針 基本法	重点目標	計画(P)	実践内容(D)	評価(C)	改善(A)
人権の尊重	≪教育・保育理念≫ ・人は大切　子は宝 《教育・保育方針》 ・豊かな人間性を育む ・子ども、保護者、職員が安心安全に利用できる体制づくりを図る ・子どもが、安全できる居場所が確保できるように努める	・権利擁護の園内研修、チェックリスト実施(年2回) ・虐待防止と早期発見のチェックリスト実施(年3回) ・ヒヤリハット事例会議(月1回) ・災害対策の強化(引き渡し訓練)を行い、保護者と意識を高める ・季節に合わせた遊びの環境整備（年3回)	・権利擁護の園内研修、チェックリスト実施(年2回) ・虐待防止チェックリスト実施(年3回) ・要保護観察児童2名について、保護者との対話、子どもの丁寧な観察 ・ヒヤリハット事例会議(月1回) ・引き渡し訓練の実施	・園内研修を通して、普段の保育を振り返り、自分の行動も見直す機会となった。 ・要保護観察児童以外の子どもについても区役所と連携をとるように努めた。 ・ヒヤリハット事例会議では、子どもの行動からリスクを検討したが事例が減っていた。	・研修で自分自身の保育を振り返ることで気づくことが多く、見直しができ実践につながった。他職員にも声を掛け合える関係づくりが課題である。 ・家庭保育における通報事例があったので園での様子も注意して見守り、今後も区役所と連携をとっていく。
サービスの質の向上	・保護者との連携 ・行事や掲示を通して、保護者へ子どもの育ちなど共有できるようにする ・保育内容、質の向上 ・親子で楽しむ機会をつくる	・行事は日々の保育に継続して繋がっていくものとし、保護者へ子どもの育ちがわかるように発信し理解を得ていく ・金沢晃氏の発達相談(月1回) ・SNSを活用し園の様子を発信 ・子どものエピソードを振り返り遊びの中の学びを記録する ・保護者アンケートの実施 ・第三者評価受審 ・親子体操、親子工作の実施	・玄関ホールにドキュメンテーション形式で行事や日々の保育の様子を掲示し、園便りに保育内容について記載 ・金沢晃氏に気になる子の観察、担任への助言、保護者相談の実施 ・インスタグラムで園での行事や取り組みを発信 ・保護者アンケートを行い、結果をアプリ配信、掲示	・第三者評価を受審するにあたって職員参画のもと保育内容やマニュアルの見直し等検討することができた。 ・保護者の子育て、子どもの発達における悩みを専門家に相談できる取り組みは、保護者の安心感につながっている。 ・インスタグラムは、配信回数が伸びなかった。	・受審結果は、保育内容やマニュアルにおいても高評価であった。職員全員で取り組んだ成果と思うので、今後も継続していけるようにする。 ・インスタグラム配信については、行事の担当がその都度作成するなど職員全体で取り組むことでより活性化させながら配信回数を伸ばしていく。 ・親子体操が好評であったので、親子工作の実施など親子で楽しめる催しを計画していきたい。
地域との共生	・子育て支援 ・地域の子育て世代に向けた交流の場を提供する ・社会貢献	・一時保育受け入れ継続 ・保護者会と協賛でバザー開催 ・園庭開放、子育て相談(週2回) ・体験型保育おひさまルーム ・NPO法人クローバー、みそらこども食堂の活動に参加連携し、支援が必要な家庭の情報を共有し支援する ・地域のボランティア受け入れ ・児童館との連携	・一時保育地域より受け入れ ・おやじの会(年2回　14名7名参加) ・保護者会協賛バザー(9月28日実施) ・子育て支援こども園体験型おひさまルーム(年7回　11組親子登録) ・NPOクローバー協賛イベント実施 （8月30日・1月17日実施) ・卒園児保護者による保育見守り(週2回実施)	・一時保育は、職員の理解と協力のもと定期的に利用する家庭が増えたこともあって、受け入れ人数増加につながった。 ・保護者会主催のバザーでは、協力し合い進めることができた。 ・子育て支援事業のおひさまルームやコンサート、親子工作等を行い地域の親子の交流ができた。	・一時保育の受け入れが、職員の間でも浸透してきた。満3歳児入園につながるように進めていきたい。 ・おひさまルームに入ると1号認定入園の優先枠がとれることもあり登録者が多かったものの実際に通う人が限られていたので、優先枠の条件を検討する必要がある。 ・児童館や地域交流センターと交流する機会を持つことで地域社会とのつながりを強化していく。
人材育成	・職員の質の向上 ・意見を出し合える風土、風通しの良い関係づくりを図る ・人材確保 ・職員のメンタルヘルス対策	・キャリアアップ研修を受講しスキルを高める ・業務確認・成長シートの活用 ・園内研修の実施 ・1年目職員は、先輩職員・主幹保育教諭と共に業務全般において補佐、相談確認を行う ・次世代育成の実習生の積極的な受け入れ、養成校との連携 ・職員の心の健康づくりにおけるサポートを行う	・職員会議で研修内容について報告 ・業務確認・成長シート記入(年2回) ・保育の細かな部分は先輩職員、社会人として重要な事は主幹保育教諭が相談確認を行った ・1～3年目職員に経験を積むことができる機会を設けた	・業務確認・成長シートを行い仕事内容を見直す機会となった。その中でわからない点は主幹保育教諭と面談を行い、明らかにしていった。 ・人材確保については、学生見学があり、採用につながった。実習生受け入れは全くなかった。	・１年目とフォローレンジャーの職員の取り組みが上手く機能していなかった。新任職員のマニュアルを基に１年を通して機能していくように計画する。 ・業務確認・成長シートの内容についてわからない所、難しい所を面談を通して確認していくとわからない点がでてきたのでもっと伝えていく必要があることがわかった。 ・実習生の受け入れが無いので、学校関係への働きかけを行う必要がある。 ・一人暮らしの職員への配慮を心掛ける